

常に県民の心にある「政宗公」



▶▶ Interview

Ken Watanabe



「独眼竜政宗」はどんな思いで演じていましたか。
これは俳優の小栗(旬さん)なんかも言ってますけど、一つの役を一年以上かけてずっと思い続ける、考え続ける、体現し続けるっていうのは、俳優としてもなかなか得難い体験なんです。大河で主役をやった人たちはみんな感じていると思う。もちろん僕もそうで、それまでもいろいろ仕事をやって、時代劇もいくつかやってました。それが、本当に僕の俳優としての基礎を作ってくれたと思う。
もう一つは、キャスト、スタッフなど延べにすると何百人という人たちが常に僕を見ていて僕が引張って行かざるを得ない。そういう時にどういう心持ちで過ごすか「あいつのために何かをしたい」と思ってくれるのか。そんな姿勢みたいなものを学ばせてもらった1年半だった。

伊達政宗公が登場する時代劇で最も人気を集めたのは1987年に放送されたNHK大河ドラマ「独眼竜政宗」だった。年間平均視聴率39.7%は歴代最高で、記録は今も破られていない。主人公の政宗を演じたのは当時新進気鋭の俳優だった渡辺謙さん(63)。現在、国内外で映画、ドラマの第一線に立つ渡辺さんが河北新報社の取材に応じ、当時を振り返った。

たような気がする。
—政宗を演じて、何を感じましたか。
政宗にとって僕はマラソンの歩行者みたいなものです。僕が走って、彼が伴走者なのかもしれない。僕と政宗が何かつながりながら走り抜けたというかな。だから、もちろんすごい充実感もありましたし伴走者のロープを離すときにはある種の寂寥感もあったんですけど、一緒にゴールを駆け抜けた感覚がありました。政宗の喜怒哀楽、喜びや苦しみや悲しみ、全部をひっくるめてある種体験させてもらった。
—当時、イベントのため仙台に来たことがありますか。
仙台は大ワイバーだった。市役所に市民の皆さんが集まった際にバルコニーから手を振った時は「俺は皇族か」と思った。仙台駅のエスカレーターに人が集まりすぎて逆走したことがニュースになったのは鮮明に覚えています。
—もし政宗がいなかったら、東北はどくなっていたと思いますか。
東北全体が、もっと小さい存在として扱われてしまっているのではないかと、という気がする。
—政宗の騎馬像は地震で損傷し、間もなく仙台に戻ります。
騎馬像だけでなく石垣なども崩

○NHK大河ドラマ 視聴率ランキング(1位~20位)

順位	期間平均視聴率	番組名	主演	放送年度	順位	期間平均視聴率	番組名	主演	放送年度
1	39.7%	独眼竜政宗	渡辺謙	1987	11	26.3%	草燃える	石坂浩二 ほか	1979
2	39.2%	武田信玄	中井貴一	1988	12	26.0%	太平記	真田広之	1991
3	32.4%	春日局	大原麗子	1989	13	25.9%	黄金の日日	市川染五郎(六代目)	1978
4	31.9%	赤穂浪士	長谷川一夫	1964	14	25.0%	天と地と	石坂浩二	1969
5	31.8%	おんな太閤記	佐久間良子	1981	15	24.7%	元禄太平記	石坂浩二	1975
6	31.2%	太閤記	緒形拳	1965	16	24.6%	信長	緒形直人	1992
6	31.2%	徳川家康	滝田栄	1983	17	24.5%	篤姫	宮崎あおい	2008
8	30.5%	秀吉	竹中直人	1996	18	24.2%	勝海舟	渡哲也 ほか	1974
9	29.3%	いのち	三田佳子	1986	19	24.0%	風と雲と虹と	加藤剛	1976
10	26.4%	八代将軍吉宗	西田敏行	1995	20	23.7%	峠の群像	緒形拳	1982

NHK総合 20:00~【関東地区】番組平均世帯視聴率(初回~最終回) ビデオリサーチ調べ
ビデオリサーチのデータを元に河北新報社にてランキング表作成

○NHK大河ドラマ 独眼竜政宗 出演者 / 渡辺謙(伊達政宗)

北大路欣也(伊達輝宗)、勝新太郎(豊田秀吉)、津川雅彦(徳川家康)、桜田淳子(愛姫)、岩下志麻(義姫)、大滝秀治(虎哉宗乙)、秋吉久美子(猫御前)、さとう宗幸(支倉常長)、三浦友和(伊達成実)、竜雷太(伊達美元)、西郷輝彦(片倉小十郎)、竹下景子(喜多)ほか



1987年(昭和62年)1月1日付 河北新報朝刊

俳優 わたなべ けん 渡辺 謙 さん

Profile

1987年にNHK大河ドラマ「独眼竜政宗」で主演を務め人気を博す。ハリウッドデビュー作「ラスト サムライ」でアカデミー賞助演男優賞にノミネート。「明日の記憶」「沈まぬ太陽」で日本アカデミー賞最優秀主演男優賞、「Fukushima50」で同最優秀助演男優賞。クリント・イーストウッド監督の映画「硫黄島からの手紙」などにも出演した。新潟県出身。

おかえりなさい、政宗公

杜の都の「歴史」と「今」と「未来」をつなぐ青葉山

昨年3月の福島県沖を震源とする地震から1年余り。あの地震で大きな被害を受けた伊達政宗公の騎馬像が、修復作業を終えて、いよいよ青葉山公園本丸広場に帰還されます。

騎馬像がご不在の間、青葉山から眼下に広がる景色は、間もなく開幕する全国都市緑化仙台フェアの会場として着々と準備が進みました。もしかしたら政宗公も眺望が異なることに驚かれるのではないのでしょうか。

「仙台のはじまりの地」青葉山は、歴史、文化、学術、自然などの多様な資源に恵まれ、杜の都の「歴史」と「今」と「未来」をつなぐ、まさに本市の重要な拠点となるエリアの一つです。今、青葉山エリアでは、青葉山公園の整備や大手門復元に向けた基礎調査、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備など、さまざまなプロジェクトが進行中です。私たちは、政宗公が拠点と定められたこの青葉山を、さらに価値を高め、より魅力あふれるエリアとして発展させるため、今後もさまざまな取り組みを進めてまいります。



仙台市長 郡 和子



伊達政宗公騎馬像帰還記念式典

修復の最終仕上げである、眩月前立の取り付け作業を公開します。以前と変わらぬ凛としたお姿をぜひご覧ください。

3月31日(金)
13:30▶14:15

会場: 青葉山公園本丸広場

※混雑が予想されます。公共交通機関によるご来場にご協力ください。

お問い合わせ / 青葉区公園課 ☎022-225-7211

第40回全国都市緑化仙台フェア 未来の杜せんだい2023 ~ Feel green! ~

いよいよ日本最大級の花と緑の祭典が開幕。仙台北城跡からは、メイン会場の一つ青葉山公園追廻地区を一望できます。ぜひ会場へ足をお運びください。

開催期間 4月26日(水)▶6月18日(日)

